

管内視察研修報告

日程 平成21年10月6日

総務文教委員会

委員長 寺岡 公章

総務文教委員会では、去る10月6日に管内視察研修を行いました。午前中は、生活環境委員会と合同で阿多田島に赴き、診療所、児童館、宅地分譲地、漁業集落排水施設を視察し、それぞれ市職員、医師、児童館厚生員から説明を受けました。

午後はまず、県有地である晴海臨海公園の今後の取り組みの説明を受け、岩国大竹道路事業立ち退き商店主の代替要望の一角である晴海第一公園に向かいました。この地が代替地となれば、都市公園機能とおおたけ日曜市について、今後の協議が求められます。

次に、小方中学校で校舎等学校施設の老朽化について説明を受けました。耐震構造上問題のある建物を持つ小方中学校ですが、市の計画では小方小学校と共に大願寺山開発地区に移転改築することになっていきます。現校舎の壁や天井の剥離、雨漏り修繕の跡を目の当たりにしました。

その後の市民プールでは、現在使用されていないプールの安全管理を確認、大願寺山地区に向かいました。大願寺山地区では、ゲートから小方小・中学校移転改築事業予定地まで実際に歩いてみて、教育委員会の説

明を受けました。

次に、大竹駅東口の現状を確認後、地下道をくぐって駅正面まで歩き、校舎改築中の大竹小学校へ。改築工事の進捗よく状況を視察し、学校長より児童の様子などを聴かせてもらいました。また、ひかり児童クラブへもうかがい、児童数に対して手狭な活動環境を見学しました。

更に、使い勝手の悪いアゼリアホール機材搬入口を確認後、玖波駅西口宅地開発地に向かい、市道整備など駅周辺対策について説明を受け、17時ごろ日程を終了しています。今年度の管内視察研修には、施設や事業そのものだけでなく、実際に歩いて現状を把握する要素を多く取り入れました。各所の説明では、市行政の成果や未解決の課題などと共に、現場の声も聴くことができました。これらを今後の委員会での審査にしつかりと役立てていきたいと思えます。



大竹小学校屋上にて

生活環境委員会

委員長 日域 究

10月6日生活環境委員会の管内視察研修を行いました。午前中は総務文教委員会と合同でフェリーにて阿多田島に渡り、診療所、児童館、土地造成特別会計の分譲宅地、漁業集落排水の阿多田浄化センターの説明を受け、昼のフェリーで小方港へ。

午後は最初に玖波駅裏の民間分譲地にかかる都市計画道路予定線の現状、次に玖波ポンプ場と交通障害の恐れがあるとされる恵川橋の現状、3番目がメープルヒル病院内で地域活動支援センターみらい等を、そして4番目はさかえ保育所、5番目が東栄下水処理場に新設の雨水滞水池工事現場、最後に丸子山そばの入川水路の厄介者である繁茂する雑草を視察し午後4時に解散しました。

メープルヒル病院では院長先生から地域活動支援だけでは理解出来ないからと、統合失調症の原因について説明を受けました。「遺伝はその要因の一つに過ぎなくて、幼児期に受けた虐待や両親の離婚、母子分離などの過度のストレスが海馬の発達障害を経てストレス脆弱性を形成し、将来何かの要因で発症しやすくなること。また、精神疾患は家庭から起こるものであり、それを家庭に戻すことは大変なことであって、地域活動支援等はそのあたりを担っている

ところだ」との説明を受けました。

その後さかえ保育所を視察、目的は建物の建て替えでしたが、産後9週から受け入れるとの所長の説明に、母子分離を助長している行政の矛盾を感じてしまいました。

次の雨水滞水池は、下水道で汚水と雨水と一緒に流す合流方式の地区から、集中豪雨時に処理能力超える汚水が処理場に流入した場合、やむを得ず未処理状態の汚水を消毒だけして小瀬川に放流している現状を変えるため、下水処理場横に建設中の巨大な水槽です。

視察研修は以上ですが、この成果をこれからの委員会活動に生かしていきたいと思えます。



玖波駅西口の開発地